

MJ 進路通信

群馬県立前橋女子高等学校
進路指導部
令和4年11月4日(金)第26号

3年模試を最後のひと伸びにどう生かすか

1,2年駿台模試・進研模試を終えて…

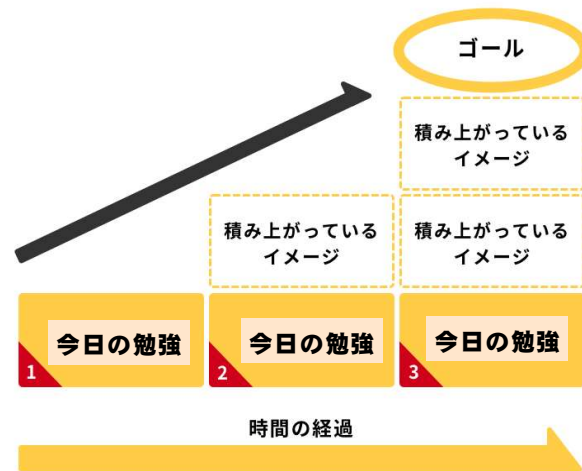
模試は現時点での“弱点”を教えてくれる最良の先生！

→模試後の“見直し”が学力アップの最短ルート！

受けっぱなしが一番、成長がない。しっかり復習をする。3年生は「今」できない問題を出してもらってラッキーと思わなければダメ（励ましの意味で「そう考えるんだよ」、ではなく受かりたいのなら実際にそう考えなきゃダメ）。各教科の演習をするようになって、得点ばかり気にしている人には「あれ？もう調整に入ってるんですか？入力はもうしないんですか？」と聞く。共通テストまで後70日強ある。夏休み2回分だ。2次試験まで110日強ある。夏休み3回分だ。まだまだ「知識を入れる、できる問題を増やす」ことに執着するんだ。



11月	12月	冬休み	1月	1/14, 15共テ	2月	2/25国公立(前)	3/12国公立(後)
-----	-----	-----	----	------------	----	------------	------------

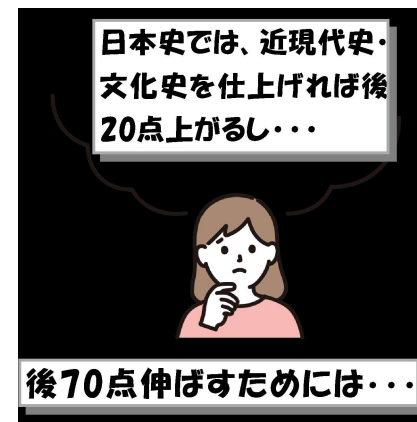


そう考えた時の視点は、まず「模試でできなかったところを即入力」する。そして、なぜできなかったのか、何（どんな知識）と混合していたのか勘違いしていたのか、そもそも知識がなかったのか、時間がなかったのか、解答を見て理解できたのかそもそも解答見てもわからないのかを分析し、次にテストで出てきた時に絶対にできるようにしていく。これをシンプルにしていけば必ず得点は積み重なる。

次に、「全国の受験生や前女生ができているのに自分ができていないところ」を見つけ、そこを潰す（即入力する）。差がつけられているところだからだ。大学別プレ模試はまさにこの視点で見ていくこと。

3つ目。共通テスト（マーク）模試は、総点で取りたい得点率（得点）があり、そのボー

ダー得点率（得点）から何%（何点）足りないか計算する。例えば、900点満点で80%のボー



ーダーなら720点が目標だ。今回の模試で71%、得点にすると639点。目標の720点から引くと「81点足りない」。残りの70数日で81点をどう積み重ねるか、どの科目で後どれくらいあげれば良いのか、を考え実行していく。数学I Aで70点、日本史で70点。どちらもあと最高で30点上乗せできる。しかし、「自分の特性からして数学は頑張っても後5点くらいか？日本史ならまだ残りの近現代史を二学期期末考査でしっかりできて文化史をしっかり入れれば90点はイケる」と言う人ならば、教科にかける時間も自分の特性に合わせてジャッジしていけるはずだ。

4つ目。判定を見て、必ずやってほしいことがある。受かる受験生はやっていると思うが、D

判定だった時、「あと何点取ればC判定だった。これとこれができればC判定になる。さ

らにあれとそれができればB判定になる」という見立てだ。「あと30点でCになる！」では曖昧すぎる。30点取れる分野や内容があったか？残りの期間でそれがクリアできる分野や内容なのか、を確認し埋めていかなければ差は縮まらない。やっていない人は必ずやってください。ラストスパートでやるべきことが、かなり明確になるぞ。

残りの模試（プレ模試）もしっかり受け、しっかり確認

共通テストに向けて、各予備校も色々考えて変化球（角度の違う出し方）を投げてくるはず。これまで受けてきた共通テスト模試、必ず何かの科目が難しくなっていたのはまさにそれ。できないのがショックなのはわかる。しかし、これは“模擬”だ。本番前に色々な角度の問題に触れられるのはラッキーなこと。「心構え」ができたわけだ。初めて見るような問題を模試本番のように解く経験は絶対に本番で生きる。模試で粘れば、本番で奇をてらった問題が出て焦らず、粘ることができる（または、冷静に「捨てる」ことができる）。残りの模試、しっかり位置付けて受けていくこと！

“ブラックボックス”に突入！虎視眈々と…大胆に…



そして最後に。11月下旬以降、共通テストのプレ模試が数回あるが、全国規模の模擬試験はなくなる。つまり、11月中・下旬から1か月半～2か月、共通テストまで大きな模試がなくなり、それは判定が出なくなるということ。例えるなら、学力の「ブラックボックス」に突入する。この11月中・下旬～共通テストまでの「ブラックボックス」をぬけた時、例年「共通テストで最高点を取れた」と結果を出す先輩が一定数いる。反面、11月の模試の点とあまり変わらないという先輩もいる。「ブラックボックス」の期間をどう過ごすかが「鍵」ということだ。今回、4つのやるべきこと、考え方を伝えた。これまでの模試では測れない「伸び」を見せることが、合格をぐっとたぐり寄せることになる。虎視眈々と大胆に、そして落ち着いて綿密に「ブラックボックス」の期間を過ごすんだ。自己新の伸びを期待して！

1,2 年生

受験における基礎学力（進研模試）、難関大で必要な学力（駿台模試）が計れる二つの模試を受け、

このレベルでの自分の全国での“立ち位置(実力)”を認識！

ここからどうしていくかのプランニングが一番重要なミッションだ。しっかり全国のライバルを意識して、受験学力を意識して、学年の後半をプランニングしていくこと。
視点は、表面の「3 年生へのアドバイス」を参考にしてほしい。

そして、**2年生**。世の中で言われるのが、

3 年 0 学期は既にスタートしている！

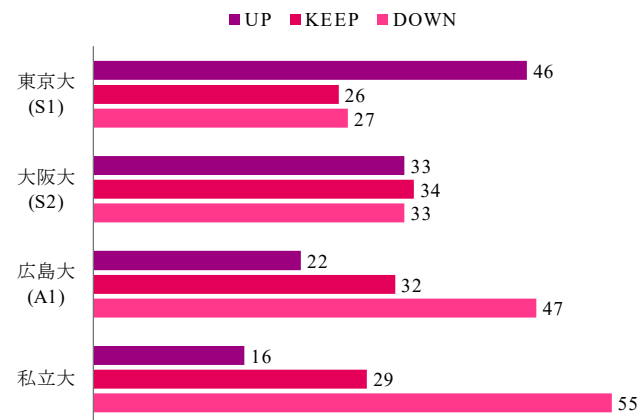
相手は、県内（だけ）ではなく首都圏の中高一貫校。一日も早く受験生へシフトする。個人的にも、集団的にもだ。その目安として具体的には

■平常の予習・復習 + α ！！ ■学年 + 2 時間 + 1 時間！

周りもここでギアを上げてくる受験生（2 年生）が一定数いる。「一定数」だ。全員ではない。国公立大学の倍率はだいたい 3 倍。3 人に 1 人が合格。一定数とはそういうことだ。

○このデータから何がわかるか～目線を上げそこに向かっていく推進力～

＜ケース①(ベネッセ資料より)＞
2 年生 **7 月 A1～A3(偏差値 60 台)** の生徒
？ 1 月模試にかけての「志望校設定」と「伸び率」



ベネッセによる資料。

左の図は、**偏差値 60 台の生徒が 1 月模試に向けて「どのレベルを志望していたか」で大きく伸びが違った**、というデータだ。

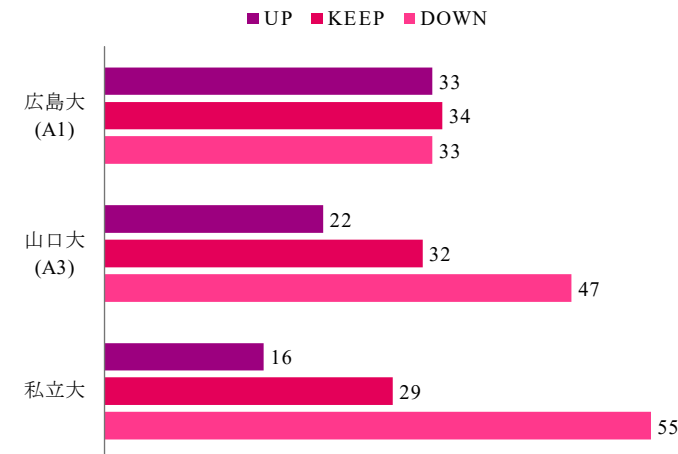
①自分の目線より上をしっかりと目指し、②自分の立ち位置とポテンシャルを客観的に認識し、③そこに向けてしっかりと努力する。高い目標を設定しておくことが普段の学習のモチベーションになっているということだ。
C1 の生徒でも 2 年のこの時期の持って行き方で「伸び方」が大きく

違ったことがわかる。3 年 0 学期の意識があなたの伸びを変える。

科目を絞る 2 年生へ～「ガチ私文」になれるか～

3 教科に絞る生徒。数学が苦手だから切るのではなく、私大の 3 教科型にした方が国公立を目指すより「良い大学には入れる確率が高い」から、絞るわけだ。そう考えると、3 教科

＜ケース②(ベネッセ資料より)＞
2 年生 **7 月 C1～C3(偏差値 45 前後)** の生徒
1 月模試にかけての「志望校設定」と「伸び率」



に絞って配点が高い割合を占めるのが「英語」になるわけで、英語が突き抜けているから私立にする。英語が突き抜けているのに数学が足を引っ張って国公立型のままだと良くても旧帝大は届かない、でも、数学を切って英国社にすれば早稲田・慶應や MARCH が狙える（＝突き抜けた得意科目がある）、そうならば思い切って私立型にすれば良い。そういう考え方、戦略だ。

そして左の図。**科目を絞っている人が次の模試で成績が下がっているのはどういうことか？**私文型で言えば、数学を切ったのに数学の学習時間分も切ってしまい、英語や社会に補填していないからだ。

つまり、**国公立だろうが私立だろうが総学習時間は変わらない**。私立の方が社会は細かい知識が出題されるから、数学をやらない分、暗記量を莫大に増やさなければならない。「意識が甘い私文＝ゆる私文」は科目を絞っても成功しない。でも、私立はピンからキリまであるから納得するかどうかは別として行ける大学はある。「英・国・社なら難関国公立組に負けないぞ」という難関国公立組を圧迫するような「**ガチ私文**」になれば自ずと結果は見えてくる。科目を切るから楽になるわけではない。細かいところまで覚えなければならない。覚える英単語量も多くなる。3 教科に絞って苦手なものがあつたら致命的だ。「○○ができない」などとは言えなくなるのだから。「**ガチ私文**になる」と腹をくくって飛び込むんだ。

目線を上げて、可能性を広げてくれる大学を目指すことが大事。

記述模試で「自己採点をする意味」

マーク・記号問題だけではないので、正確な得点はわからないが、「何ができて何が曖昧で何がわからなかった」の確認を早く行い、今後の学習に生かしていく必要がある。

さらに、**記述でも「どこを書くと点がもらえる」という感覚（センス）を磨く練習**にもなる。自己採点で「正確な得点を出すために、少しでも違ったら×（無得点）にしよう」というのは、その観点からすると「違う」（自己採点する目的を理解できてない）ということになる。「**ここが書けているから部分点プラス 1 点**」と推測しながら自己採点するんだ。結果、**得点を拾う感覚（センス）が磨かれる**。